

津川紗也夏 畑山 和代 大地 文子

徳島赤十字病院 8階南病棟

## 要 旨

せん妄患者に対する困難感5因子を年代別に比較検討することで、年代別での困難感軽減に向けた対策の一助とすることを目的とした。独自に作成した質問用紙を用いて看護師233名にアンケート調査を行った。データは統計処理し分析した。結果は91.9%の人が困難感を感じていた。困難感5因子の平均値比較では【危機】が一番高かった。年代別で比較したが有意差は見られなかった。せん妄症状が発生すると、患者との意思疎通が困難となり、安全な治療やケアが遂行できなくなる。インシデントも発生しやすく、患者から暴言や暴力を受けることも珍しくない。看護師の心は疲弊し困難感を助長させているのではないかと考える。看護師は他の職業と比べ、ストレスの高い職業である。困難感5因子は看護師のストレスとなり仕事への意欲を削いでしまう可能性がある。せん妄患者に対する困難感軽減に向けた具体的な対策が必要であることが示唆された。

キーワード：急性期病院，せん妄，困難感

## I. はじめに

せん妄は一過性の意識障害、注意および認知の障害である。発症要因は、直接因子、誘発因子、準備因子の3種類に分類され、複数の因子が重なって発症すると言われている。特に高齢者は発症率が高く、せん妄を発症すると入院期間の延長や死亡率の上昇に大きく影響する。2020年の診療報酬改定では、せん妄ハイリスク患者加算が新設され、急性期病院のせん妄ケアに対する対応力の向上が注目されている。

A病院は急性期病院であり、令和2年度の平均入院日数は8.3日、病床稼働率（在院延）は88.7%であった。その中で、せん妄ハイリスク患者は70.0%を占めており、入退院の煩雑な業務に加え、せん妄ケアを並行して行わなければならない現状が伺える。病棟の看護師は、日々せん妄予防のためアセスメントやケアを実施しているが、せん妄発症をすべて予防することは困難である。長谷川は<sup>1)</sup>「入院患者にせん妄が出現すると、看護師は、患者の医療処置の遂行と安全確保をどう両立するかという課題に直面する」と述べている。また、病棟看護師からは、「見守

りが必要なため、他の患者のケアができない」「患者が興奮し対応に困った」「どうしていいかわからない」、ベテラン看護師からは「この人数では限界だ」「業務の中断でストレスがかかる」「せん妄患者を受け持ちたくない」などの意見が聞かれた。せん妄患者との関わりでは、年代によって価値観や判断力に差があることは明らかにされているが、せん妄患者に対する困難感5因子は年代によって差が生じるのか疑問に思った。

様々な患者に対する看護師の困難感に焦点を当てた研究は過去にもされており、それらには、困難感を感じる共通の5つの要因が関与していることが分かった。そこで、せん妄患者に対する困難感もこの5つの要因と関与していると仮定し、困難感5因子として、因子別に年代で比較検討した。

## II. 目 的

せん妄患者に対する看護師の困難感5因子を年代別に比較検討することで、年代別での困難感軽減に向けた対策の一助とする。

### Ⅲ. 方 法

1. 研究デザイン質問紙法による量的記述研究
2. データ収集期間

2021年10月1日～2021年10月31日

3. データの収集方法

- 1) 先行研究を参考に独自に質問用紙を作成した。
- 2) A病院一般病棟に勤務する看護師（研修看護師と管理職を除く）233名に質問用紙を配布し、せん妄患者に関わる看護師の困難感についてアンケート調査を行った。
- 3) 各病棟の休憩室に回収袋を設置し、対象者に投函してもらい、研究者が回収した。

＜質問用紙内容＞

- ① 個人属性（年齢（年代別）、実務経験年数）
- ② 過去3か月を振り返り、せん妄患者との関わりで困難感を感じたことがあるかどうか
- ③ ②の関わりでの最も困難感を感じたときの状況や場面について  
質問内容を【背景】【危機】【看護】【多職種】【倫理】の困難感5因子を基に5項目で回答
- ④ せん妄患者との関わりについての自由記載

4. データ分析方法

各データはExcelに入力し、統計ソフトはSPSSを使用し分析した。

記述分析を以下のように実施した。

- ① ②実数と％、実務経験年数は平均±SD（幅）
- ③ 困難感5因子のそれぞれの質問項目に対し「そうではなかった（1点）」「あまりそうではなかった（2点）」「どちらでもなかった（3点）」「ややそうだった（4点）」「そうだった（5点）」をリッカート尺度5件で点数化し、5因子を得点化した。困難感5因子を年代別にそれぞれ一元配置分散分析を行った。検定の有意水準は0.05%未満とした。
- ④ 年代別で困難感5因子との関連性を見た。

### Ⅳ. 用語の定義

困難感：せん妄患者の看護を行う上で生じる看護師の戸惑い・葛藤・苛立ち・不安などの主観的な精神負担

【背景】：直接患者に影響しない看護師側の事情

【危機】：悪い結果・成行きを招くかもしれない状況

【看護】：ケアの総体

【多職種】：専門性の異なる職種が互いに協力すること

【倫理】：看護師としての道徳観

### Ⅴ. 結 果

233名の看護師に質問用紙を配布し213名から回答が得られた（回収率91.4%）。有効回答は210名であった（有効回答率98.5%）。対象者の年代別の人数は30歳未満が83名、30～39歳未満が57名、40～49歳未満が31名、50歳以上は22名であった。平均実務経験年数は11.9年（±10.2年）であった。過去3か月を振り返り、せん妄患者との関わりで困難感を感じた人は193人で91.9%と大半の人が困難感を感じていた（図1）。

困難感5因子の平均値の比較では【危機】が一番高く、次に【倫理】【背景】【看護】【多職種】の順だった。年代別で平均値を比較した結果、40～49歳が最も困難感が高く、次に50歳以上、30歳未満、30～39歳の順だった。年代別の困難感5因子の平均値の比較では30歳未満は、【倫理】が最も高く、次に【危機】【看護】【背景】【多職種】の順であった。30～39歳では、【背景】が最も高く、次に【倫理】【危機】【看護】【多職種】の順であった。40～49歳でも【背景】が最も高く、次に【危機】【倫理】【看護】【多職種】の順であった。50歳以上でも【背景】が最も高く、次に【危機】【倫理】【看護】【多職種】と40～49歳と同じ結果だった。困難感5因子をそれぞれ年代別で比較したが有意差は見られなかった（表1）。

自由記載では30歳未満は「安全確保のために抑制せざるを得ない場面や状況が多くストレスになっている」「時間をかけて丁寧な対応をしたいができていない」「時間があればゆっくり傾聴できるのに」などの意見が聞かれた。30～39歳では、「頻回なナースコール、大声で叫ぶ、徘徊、転倒予防のための見守り、夜間は看護師のみでの対応に限界を感じる。拒否する暴力に移行した場合、自分の身を守ることを優先したい」「一人のせん妄患者の対応に手を取られ、他の患者の安全を守れているか疑問を感じる」などの意見が聞かれた。40～49歳では「夜の対応について、朝眠気が強すぎて朝食を摂取できなかったため過鎮静と記録されているのを見

ると、どうすればよかったのか、間違った対応だったのかと思う」「入院患者の高齢化が進み、どの病棟でもせん妄患者が増えている」「高齢の患者が多すぎて今の体制では対応できなくなってきている」「リリーフがありがたいが、来てくれない時もある」「リリーフを呼びにくい」「抑制をせずに見守

りたいがスタッフの数が不足している」などの意見が聞かれた。50歳以上では「コロナ禍で面会不可のため、家人との交流がないことで不穏増悪に繋がっている」「精神的にとっても疲れる」「せん妄患者がいることに憂鬱」などの意見が聞かれた。

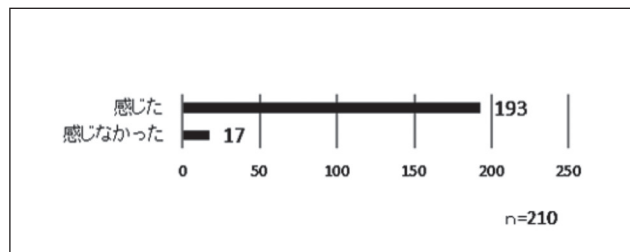


図1 せん妄患者との関わりで過去3か月以内に困難感を感じたかどうか

		困難感5因子					
		総得点の平均	【背景】	【危機】	【看護】	【多職種】	【倫理】
全体	全体数(n=193)		17.0	<u>17.5</u>	15.4	13.7	17.3
年代別	30歳未満	79.8	15.5	17.5	15.9	13.0	<u>17.7</u>
	30~39歳	79.0	<u>16.9</u>	16.6	15.1	14.1	16.7
	40~49歳	<u>85.5</u>	<u>19.7</u>	18.7	15.2	14.5	17.2
	50歳以上	84.5	<u>19.0</u>	18.5	15.4	13.6	17.8
	p値		4.15	0.18	0.52	0.29	0.55

表1 困難感総得点と因子ごとの平均得点

## VI. 考 察

困難感 5 因子の平均値の比較で【危機】が一番高かったことから、せん妄症状が発生すると患者との意思疎通が困難となり、治療やケアの必要性を説明しても理解が得られず安全な治療やケアが遂行できなくなる可能性が示唆される。転倒や転落、ライン類の自己抜去などのインシデントも発生しやすく、患者から暴言や暴力を受けることも珍しくない。小池らは<sup>2)</sup>「対応に時間を要することで、仕事の優先順位や時間配分を考えて行動している看護師にとって業務の中断はストレスが大きい」と述べており、患者から治療やケアの理解が得られず、業務が滞ることで焦りが生じ、看護師自身の気持ちに余裕がなくなることが推測される。また、急性期病院における高齢患者の不穏状態と看護師の困難感の先行研究では<sup>3)</sup>、病棟看護師が対応困難と感じている事象として「カテーテルや点滴の自己抜去」「転倒・転落」がいずれも 95% 以上を示しており、今回の研究結果においても共通している点が見られた。患者の安全を第一に考えると同時に、事故が起きたらどうしようという不安な思いや、せん妄症状の一環として理解していても割り切れない患者の暴言や暴力によって傷つき、心が疲弊することが、困難感を助長させているのではないかと考える。

年代別で困難感を比較した結果、40～49 歳が最も高かった。この年代は、病棟業務以外にも、新人看護師の育成、後輩の指導、委員会活動、チームリーダーなど、多くの役割を担う年代であり、多重課題を抱えながら日頃の業務を実施しなければならない。このことから、常に時間的な切迫感を感じることも多く、苛立ちを感じているのではないかと考える。また自由記載からは、「夜の対応について、朝眠気が強すぎて朝食を摂取できなかったため過鎮静と記録されているのを見ると、どうすればよかったのか、間違った対応だったのかと思う」という意見があり、せん妄患者の不眠時の薬剤選択を例にしても、自分の行動に責任感を強く感じている。スタッフから相談される機会が圧倒的に多く、責任とプレッシャーから困難感を増強させているのではと考えた。そして、ライフイベントでは、仕事とプライベートの両立や、身体能力の変化が起こる年代でもあり、さらに困難感を助長させていると考える。

年代別での困難感 5 因子の平均値の比較では、30 歳未満は、【倫理】が一番高かった。自由記載からも「安全確保のために抑制せざるを得ない場面や状況が多くストレスになっている」「時間をかけて丁寧な対応をしたい」「ゆっくり傾聴したい」という意見が聞かれ、基礎教育を終え、臨床での経験を踏まえて、自己の看護観を持ち始めている年代であり、患者との関わりを大切にしたいという思いを強く抱いている。臨床現場では、医療の高度化・複雑化が進み基礎教育と現場のギャップはますます大きくなる傾向にあり、抱えている自己の看護観と現実の差に戸惑いを感じているのではないかと考えた。また、せん妄患者のケアの遂行と安全確保を両立させるために身体抑制をすることも少なくない。小池らは<sup>2)</sup>「抑制の同意が事前になされていても抑制の判断は看護師に委ねられている。そのため、抑制実施の際には患者の人権を守れているのだろうかという疑問と事故防止のために抑制を行わざるを得ない倫理的ジレンマを感じている」と述べている。せん妄患者の思いを汲み取れないまま、身体抑制を選択することによって、安全と患者の尊厳を守ることの狭間で葛藤し、困難感を感じていることが推測される。

30～39 歳、40～49 歳、50 歳以上では、【背景】が一番高かった。30 歳以上は、リーダー業務を経験し、夜勤帯でもリーダーを任されている。病棟全体の把握、業務量の調整など、特に看護師の人数が少ない休日や夜勤帯では、緊急入院の対応、リリーフの依頼のタイミングなど、その時々状況や場面で、瞬時的判断力を問われることが多い。吾妻らは<sup>4)</sup>「ベテランと言われる看護師であっても自己のコミュニケーション能力やリーダーシップ能力や専門的知識の不足によりチーム内で能力を発揮できていないと感じていた」と述べている。自分の判断や対応に重圧を感じ、調整の不安から困難感を増強させていると考える。そして、高齢社会が進む中、入院患者も高齢化が進んでおり、日常生活における介護度や認知症患者も増加を増す一方である。自由記載からも、「どの病棟でもせん妄患者が増えている」「高齢の患者が多すぎて今の体制では対応できなくなってきている」との意見が聞かれ、経験してきた過去の背景と現在の背景を照らし合わせ、煩雑する業務の多忙さに困難感を感じているのではないかと考える。また現在は、コロナ禍の影響もあり「面会不可のため、



家族と会えないことで不穏増悪に繋がっている」「精神的に疲れる」との意見も聞かれ、家族からのサポートが得られず、どの勤務帯でも切れ間なく、見守りを行わなければならない疲労感も困難感に繋がっているのではないかと考えた。

困難感 5 因子をそれぞれに年代別で比較したが、有意差は見られなかった。因子別に平均値をみても大きな差は見られず、どの年代においても 5 因子すべての平均値が高かったことが伺える。3 交代という不規則勤務を行いながら、人の命を預かる責任、献身的な姿勢で業務をこなす看護師は、他の職業と比べても非常にストレス強度の高い職業だと言われている。困難感を抱き続けると、精神のおよび身体的ストレスとなり、今後は、仕事への意欲を削いでしまう可能性も考えられる。そうならないように、今回の研究の結果を踏まえ、せん妄患者に対する困難感軽減に向けた具体的な対策が今後の課題である。

## Ⅶ. おわりに

1. 困難感 5 因子の平均値の比較では【危機】が一番高かった。30歳未満では【倫理】が最も高く、30歳以上では【背景】が最も高かった。
2. 年代別で平均値を比較した結果、40～49歳が最

も困難感が高かった。

3. せん妄患者との関わりで生じる困難感 5 因子をそれぞれ年代別で比較したが有意差は見られなかった。

## Ⅷ. 利益相反

本論文に関して、開示すべき利益相反なし。

## Ⅸ. 文 献

- 1) 長谷川真澄：入院高齢者のせん妄症状に対する身体拘束をめぐる看護師の困難とその対応策。北海道生命倫理研 2015；6-14
- 2) 小池善恵，小林真知子，北村麻耶，他：せん妄患者に関わる看護師の困難感。長野赤十字病医誌 2016；29：56-9
- 3) 倉岡有美子，井部俊子，松永佳子，他：急性期病院における高齢患者の不穏状態と看護師の困難感。日赤看会誌 2014；14：27-32
- 4) 吾妻知美，神谷美紀子，岡崎美晴，他：チーム医療を実践している看護師が感じる連携・協働の困難。甲南女大研紀 看護学・リハビリテーション学編 2013；23-33

---

## Difficulties Experienced by Nurses with Patients with Delirium in Acute Hospitals

Sayaka TSUGAWA, Kazuyo HATAYAMA, Ayako OCHI

8th floor, South Ward of Tokushima Red Cross Hospital

The purpose of this study was to compare five factors associated with difficulties experienced by nurses with patients with delirium by age group and to assist in the development of measures to reduce the level of difficulty in each age group. We conducted a questionnaire survey of 233 nurses using an independently developed questionnaire. The data were processed and analyzed statistically. As a result, 91.9% of nurses expressed difficulties. When comparing the mean values of the five factors affecting difficulty, "crisis" had the highest value. No significant differences were observed according to age group. Nurses cannot care for patients with delirium because of difficult communication. Incidents are also likely to occur, and it is not uncommon to receive verbal abuse or violence from the patients. It appeared that the mental exhaustion of the nurses may have exacerbated the sense of difficulty. Nursing is a highly stressful occupation compared to other occupations. The sense of difficulty may cause nurses to become stressed and lose their motivation to work in the field. It is suggested that specific measures must be taken to alleviate the difficulties experienced by nurses when treating patients with delirium.

Key words : acute hospital, delirium, distress

Tokushima Red Cross Hospital Medical Journal 28 : 166-171, 2023

---